

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 2 月 16 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2171800259		
法人名	NPO法人 グッドシニアライフ		
事業所名	グループホーム「和居和居」		
所在地	土岐市泉町大富174 (電話) 0572-53-1233		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年2月15日	評価確定日	平成20年3月27日

【情報提供票より】 (平成 20 年 2 月 3 日 事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 2 月 5 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 13 人, 非常勤 7 人, 常勤換算	15 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,800 円	その他の経費(月額)	30,500~ 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(380,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	150 円	昼食	300 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要 (平成 20 年 2 月 3 日 現在)

利用者人数	17 名	男性	1 名	女性	16 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	8 名	要介護4	0 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低 78 歳	最高	97 歳	

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	土岐内科クリニック
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは広い敷地と恵まれた自然環境にありながら、地域住民の息づかいも身近に感じられる静かな住宅地の一角にある。管理者・計画作成者を含め6名の職員が認知症介護実践研修を受講し、他にも各種の研修会に参加し、資格修得等に積極的に取り組み、専門的で熱意あるゆりのケアを実践しており、それは利用者の明るい表情、会話、やさしい仕草となって表れている。職員の年齢層には幅があり、チームワークもよく、利用者から学び、共に支え合い、助け合い喜怒哀楽を共にしながら暮らしている。市や家族の会とうまく連携を図り、また、地域の人々に見守られ、安心して生活の出来るグループホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題はなかったが、地域密着型のホームを目指して、地域住民の協力を得られるような行事を行うよう取り組んできた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員で取り組み、日頃のケアの見直しに活用した。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は、3ヶ月に1回、ホームの1階で開催し、利用者の生活の様子も見てもらっている。家族会の代表者・町内会長も出席している。ボランティアによる夢芝居、相撲の隆乃若の訪問、介護相談員の月2回の訪問といった行事予定や、学習療法により認知症状の改善した事例紹介等のホームからの報告を行い、家族会の意見もある。町内会長から地域の地盤状態の説明を受け、災害時における地域への協力要請を行い、運営や災害対策に活用している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会から外出する機会を多くつくるよう提案があり、家族が所有する栗山で栗拾い、陶磁器関係の展示会の観覧が行われた。また、家族からわらの提供を受け「草鞋づくり」を行うなど、家族会から出された様々な意見・要望に対応し、運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、回覧板から地域の情報を得て、町内会の祭りや盆踊り、正月後の「ドンド焼き」等の行事に参加している。ホームで行われる七夕コンサートには、地域の人もホームに来て楽しんでいる。また、近所のスーパーに買い物に出かけたりして、顔見知りになっている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者尊厳の尊重」「地域に根ざしたホーム運営」をホームの理念とし、「医療・介護・生活のバランスのとれた運営」「残存機能の行使による認知症進行の予防」「生きる場としての家の提供」と、具体的な運営方針がわかりやすい言葉でつくられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念と運営方針は、1階と2階の目に触れる廊下に掲示してある。毎朝の申し送り時、また、月1回のミーティングの中で確認し合い、ケアの実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧板から地域の情報を得て、町内会の祭りや盆踊り等の行事に参加している。ホームで行われる七夕コンサートには地域の人もホームに来て楽しんでいる。また、近所のスーパーに買い物に出かけたりして、顔見知りになっている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で取り組み、管理者が意見をまとめている。地域との支えあいの項目では、老人会や子供会を巻き込んだ取り組みが出来ないとスタッフから意見が出され、自己評価からの気づきがあり、課題となっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、3ヶ月に1回、ホームの1階で開催され、利用者の日常生活の様子も見てもらい、家族会の代表者・町内会長も出席している。行事予定や事例紹介等のホームからの報告、家族会の意見や災害時における地域への協力要請もあり、運営に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市福祉課・包括支援センターとの連携はとれており、情報の窓口としている。ボランティアによる五感健康法も、市から情報を得て利用している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行する「和居和居新聞」に写真入りの行事報告を掲載し、送付している。個人個人には電話や面会時に報告をしている。また、正月には、1年分の生活記録としての写真を一人ひとりに渡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が開催され、意見や要望が出されている。外出の機会を増やしてほしいという要望には、陶器関係の見学や家族の持ち山で栗拾いの体験が行われ、家族が提供したわらを利用して「草履作り」行うなど、運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	以前は、職員の離職や異動があったが、この2年くらいはなく、利用者との良い関係が作られている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、認知症介護実践研修に6名が受講し、各種の研修会にも参加している。資格取得にも前向きに取り組んでおり、全員が脳トレーニングや学習療法の指導資格があり、ケアの中に活用している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループ協議会には加入していないが、事例発表会には参加している、職員は、私的に他のグループホームと交流している。	○	地域のグループホーム同士の交流会ができるようなホームとしての取り組みに期待したい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	1日の体験入居を行ったり、家族と一緒に見学し、利用者と共に昼食を食べたりして、ホームの雰囲気慣れ、サービスの利用につなげている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	若い職員は、料理によって変わる食材の切り方を利用者から教えてもらったりしている。学習療法の時には、ゆっくりと、向き合いながら、会話を楽しんでいる。また、梅干し作り・ラッキョ漬けなど、利用者ともに作業をしている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p><b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> <p><b>1. 一人ひとりの把握</b></p>					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日頃のケアの中から、利用者の希望や意向の把握に努めている。夫の月命日に家族と共に外出したり、ウナギの好物な人には外食を楽しむ等、利用者一人ひとりの思いに添えるよう支援している。</p>		
<p><b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b></p>					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者や家族の意見や意向を聞き、ミーティングで話し合い、介護計画を立てている。家族や利用者の了解のうえで、1日30分の学習療法を介護計画に入れ、認知症状の進行予防に活用して効果を得ている。</p>		
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は、3ヶ月に1度見直しており、学習療法の進展状況や改善点などを取り入れている。今まで、職員の名前が言えなかった利用者が、呼べるようになってきている事例もある。</p>		
<p><b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b></p>					
17	39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>緊急時の受診通院介助、学習療法、日帰り旅行の支援等を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症の専門医であるホームの協力医による月2回の往診がある。家族や本人の希望を大切に、これまでのかかりつけ医への受診の継続が家族の協力で行われている。月1回の歯科の訪問もあり、口腔マッサージなどの指導を受け、ケアに活用している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた取り組みとしては、家族や利用者と十分話し合い、ホームの協力医や看護師の協力を得ながら対応していく方向で、管理者はその体制の整備に努力している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「和居和居新聞」に写真を掲載する場合も、家族に了解を得ている。苦情箱の設置は、プライバシーを配慮し、目に触れにくい場所に置かれている。理念の中にも尊厳を最大限尊重することが述べられており、職員に浸透している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝の申し送りにおいて、利用者一人ひとりの体調や思いを共有している。利用者の希望や意向を大切にしながら、1日を利用者のペースに合わせて支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	静かなゆったりとした食事風景で、職員も利用者の横で共に食事をとり、声を掛けながら介助している。食事の準備、配膳、下膳、後片付け等は、利用者も出来ることは自発的に行っている。配膳・下膳の出来ない利用者には、職員がさりげなく支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、週に3~4回の入浴を楽しんでいる。時間は決まっておらず、毎日入浴をしないと精神的に不安定になる利用者もおり、利用者一人ひとりの希望に合わせて支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	踊りの師匠であった利用者には、地域やホームで盆踊りの指導をしてもらったり、掃除の大好きな利用者には、掃除道具を渡して毎日の生活に活かしてもらっている、		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週に1回、家族が利用者と共に図書館へ行き、好きな本を借りている。散歩カードを作成し、散歩ができたなら「印」を押し、目標回数が達成出来たら、回転寿司に出かける楽しみごとにも支援している。また、交替で食材の買い物に外出している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の鍵はかけていないが、夜の決められた時間帯は、安全目的で施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近くに消防署があり、火災訓練の指導を受けている。また、運営推進会議の中で、地域の協力を要請している。飲料水、レトルト食品やおかゆなどを備蓄している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の利用者がおり、食事の摂取量に注意をしながら支援している。夜間は、いつでもお茶が飲めるようになっている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の展示コーナーには、季節ごとにまとめて利用者の作品が掲示されている。階段をうまく活用して季節の鉢植えの花が置かれ、玄関横と2階には衣桁が置かれて利用者の上着が掛けてあり、生活感がある。また、1階の食堂広間には、オルガンや観葉植物が置かれ、居心地よく過ごせる工夫がみられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和ダンス、観音様、利用者のよく使いこなした鏡台、写真などが持ち込まれ、利用者の個性が生かされた居室となっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。